

22 オリジナル

Originally May 2023

ともえ基金

vol. 12 May 2023



声に思いをのせて届けたい

沢知恵



「ともえ基金」

「ともえ基金」は、私が生後6か月からかわりをもち、2001年から行っている瀬戸内海のハンセン病療養所、大島青松園でのコンサート經費を支えるサポート基金です。みなさまから寄せられたお志は、船舶費、音響費、照明費、ピアノ関連費、広報費、交通費、宿泊費、食費、事務経費などにあてられます。

大島青松園コンサートの經費が満たされたうえで、それ以外のハンセン病療養所、災害被災地、少年院、児童養護施設のボランティア・コンサートも支えていただくことになっています。基金の中から私が出演料をいただいたり、事務スタッフが報酬をいただいたりする場合は、いっさいありません。

コロナが始まって3年。通常のコンサートも思うようにできませんでしたが、おかげさまで、昨期は4つも「ともえ基金」コンサートをすることができました。今期はずつと行っていない少年院、児童養護施設にも出かけたかったです。声に思いをのせて届けたい。応援どうぞよろしくお願いします。

〈ともえ基金〉会報のデザイン

森英二郎 思い出のクリフォード ⑦

あ
る時、図書館のCD棚に立ってか
けてあった、髪の毛の長い女の子が
椅子に座っている写真のジャケットが気
になってCDを借りました。「エイミー・
ワインハウス/バック・トゥ・ブラック」
と書いてあった。エイミー・ワイン
ハウスのことは全く知りませんでした。
聴いてみるとちょっと懐かしいR&Bみ
たいやしジャズっぽいのやレゲエみたい
なものもある、どれもなんか新しい感じ
がしてすごいカッコよかった。調べてみ
ると23歳のイギリスの女の子でした。し
かしこの時すでにアルコールとドラッグ
が原因で27歳で亡くなっていると知
てびっくりしました。

エイミー・ワインハウス 1983-2011



もり・えいじろう 1948年、京都府生まれ。関西のタウン情報誌「プレイガイドジャーナル」の表紙、野外コンサート「春一番」ポスター、『荷風と東京「断腸亭日乗」私註』（川本三郎著）、絵本『おとうさんのうまれたうみべのまちへ』など。

おおにし・よしとか 1974年、京都府生まれ。京都嵯峨嵐山にある古書店London Books店主。文芸書を中心に、人文書、美術書、絵本、サブカルチャーなどを扱う。観光客と地元の人に支えられ営業を続ける。

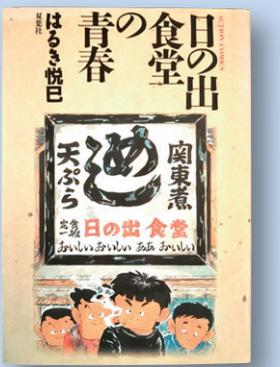
London Books
616-8366 京都市右京区嵯峨天龍寺今堀町22

『ジャリン子チエ』の文庫版がよく売れているらしい。小学生の頃からの本作のファンとしては、新たに若い読者がついていっているのは嬉しい話。

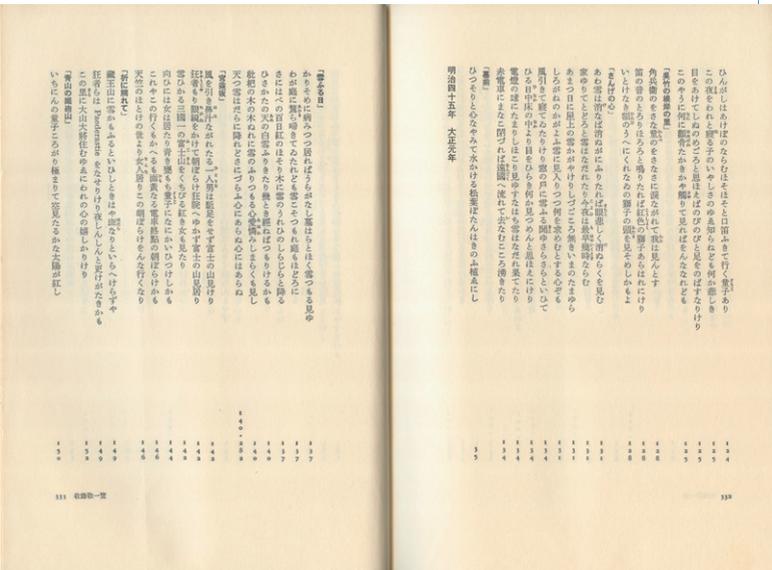
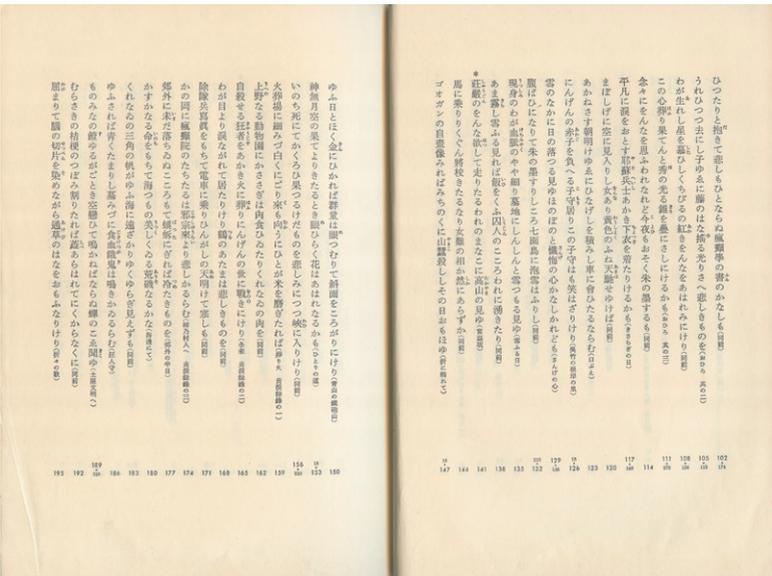
『日の出食堂の青春』は、『ジャリン子チエ』の作者の隠れた名作。『ジャリン子チエ』連載開始とほぼ同時期に連載。古い商店街を主な舞台に、就職も家業の手伝いもせず怠惰な日々を送る四人のボンクラ少年と、彼らの憧れのマドンナ、マドンナが恋する元不良のイケメン少年がからみ、青春の終わりを描いている。

はるき悦巳に対するボクのイメージは照れ屋というもの。『ジャリン子チエ』という下町人情喜劇のイメージが強いかもしれないが、ベタついた人情ものとはまったく異質のクールさがある。『日の出食堂の青春』では照れ屋の作者がよりシリアスで情感のこもるシーンを描いている。初読時、登場人物たちが何かを失う描写の切なさに完全にやられてしまったが、何度読み返しても名作と思う。

日日読書
大西良貴 19



はるき悦巳
『日の出食堂の青春』
双葉社/1989年
初版はカスタムコミックス
(日本文芸社)1981年



下の両側に歌があるのは手強いデザインだが、その下の広めのマージンが機能し、押し付けがましさを抑えている。

さて、目次。各掲出歌の下に小さく括弧で括った聯の題。間隔をあけてノンブル。具合のよいアキ。それらはサンセリフ（フリーツラ）で、ところどころ小さくローマン体（センチユリ一系）の数字が中黒を挟んでつくのは、本文の他の頁に当該歌が引用されている箇所を示す。この目次は達人の技。これが後付けの周到さに至る。

巻末に目次と共通する形で、『百首以外の収録歌一覧——全首引用のみ』。収録歌は活字のポイントを目次より小さく、その頁番号は縦組みでローマン数字をガラモンド系に変えている。字間をあけるのは、頁下のノンブルが同じ書体なので差をつける。巧妙な工夫だ。本文とこれら頁の意匠は、著者塚本邦雄に組版が出した答と思う。

メモランダム本のデザイン 14
『茂吉秀歌』
『赤光』百首
その2
日下潤一
87 247 84
93 90 308

I	I	I	I
5	5	4	4
0	2	9	9

333 収録歌一覧

『茂吉秀歌』の続き。版販を大きくしたのは前の目次と巻末。この本の目次は、それぞれの項目が掲出歌だから、柱は長い字数になるのは必然。見開き頁の

原寸ノンブル/目次(上)収録歌一覧(下)

沓掛

の時次郎がいう。
「あつしは旅にござんす。一宿一飯の恩があるので、怨みつらみもねえお前さんに敵対する、信州沓掛の時次郎という下らねえ者でござんす」

挨拶を受けた六ツ田の三蔵が返す。
「左様でござんすか。手前もしがない者でござんす。ご丁寧なお言葉で、お心のうちは大抵みとりますのでござんす」

長谷川伸の戯曲『沓掛時次郎』の一節だ。旅の渡世人は、土地土地の親分に「仁義」を切って宿と飯の恩にあずかる。何もなければワラジ銭をもらって発てばよい。しかし、事あるときに頼みごとをされれば、喧嘩の助っ人でも殺しても断われない。

時次郎のそんな事情を三蔵も知っている。「仁義」(挨拶)をかわしたあと二人は白刃をふるって争い、三蔵が斬られる。

三蔵は今わのきわに、女房と子供を在所の中山道熊谷宿まで連れて行ってくれないか、と時次郎に頼む。時次郎は旅するうち、美貌で病身の女房にひそかに愛着するようになるが、そんな自分を恥じる。女房は女房で、時次郎の負担となることをつらく思い、子供と一緒に身を隠す。

それから半年、高崎宿の木賃宿にいた時次郎は、門付けの三味線の音色でそれと知り、彼女と再会する。しかし病はすでに篤い。旅のヤクザが高い薬代を得る手段は喧嘩の

関川夏央 昭和残照 十四

「義理人情」という思想

助っ人だ。白刃の下をくぐって得た金を持って時次郎は急ぐが、遅かった。時次郎は残された子どもを連れて自分の在所の沓掛(現在の中軽井沢)へ向かう。

長谷川伸が『沓掛時次郎』の舞台脚本を書いたのは一九二八年(昭和三)、四十五歳のときである。この作品は八回映画化され、初回は二九年で辻吉朗監督、主演大河内伝次郎、ヒロイン酒井米子であった。それも佳作だが、もっともすぐれているのは八回目、最後の映画化『遊侠一匹 沓掛時次郎』(加藤泰監督、一九六六年)だと佐藤忠男はいう。六〇年から五年間、内田吐夢監督の『宮本武蔵』五部作を終え、萬屋錦之介と改名する前の中村錦之助の最高作だという。

佐藤忠男は七一年春、三十九歳で『長谷川伸論』に着手した。七三年六月から一年間『中央公論』に連載、さらに三章を加筆して七五年二月に刊行した。

執筆の直接のきっかけは、アメリカ滞在中の日本人青年が徴兵されてベトナム戦線に送られたことであった。青年は戦地の休暇に日本へ戻り、当時アメリカ軍脱走兵を救援して



イラストレーション……南仲坊

いた「平連」に駆け込んだのだが、佐藤忠男は、旅行者がアメリカの「一宿一飯」の論理にからめとられた姿を見た。
当時話題となった江藤淳『漱石とその時代』は明治・大正の知識人の精神史だが、デビュー論文が「任侠について」(『思想の科学』一九五五年)であった佐藤忠男は、日本人の精神に近代主義より深く根づいた「一宿一飯」「義理人情」のような思想を、大衆の精神史として書こうと試みた。執筆の助けとなったのは一九七二年から刊行された『長谷川伸全集』全十六巻(朝日新聞社)であった。

せきかわ・なつお 1949年、新潟県生まれ。作家。代表作に『海峡を越えたホームラン』(双葉社/第7回講談社ノンフィクション賞)『坊っちゃん』の時代』(双葉社/谷ジローと共作・第2回手塚治虫文化賞)、近著に『人間晩年図鑑』シリーズ(岩波書店)。

続

ぼくの映画館は家から五分 22

伊野孝行

下 高井戸の隣駅、明大前に「ブックカフェ槐多」という店があった。天折の天才画家、村山槐多の名を冠する店のオーナーは窪島誠一郎氏。長野の「無言館」(戦没画学生の絵を所蔵)の設立者でもある。窪島氏の父は水上勉。東京大空襲で生き別れになり再会したのは34年後。このことと映画は関係ない。

水上勉は幼少から禅寺に奉公し、精進料理を身に付けた。このことと映画はごく関係がある。
下高井シネマは100名近い高齢者で混雑していた。信州の古民家で一人暮らし作家ツトム(沢田研二)は畑を耕し山菜やきのこを採る。生活の全てが生きていることに直結し余計なことは考えなくていい……高齢者は憧れても安易に手を出してはいけない。憧れは土井善晴監修の料理と信州の景色にとどめておこう。かつての日本人の生活は、今や田舎暮らしのプロにしか出来ない。水上勉の禅寺修行がものを言うエッセイの映画化。

禅寺の娘(檀ふみ)が届けてくれた亡き住職の漬けた60年もの梅干しの味にジュリーは泣く。恋人で担当編集者(松たか子)の豹変ぶりは薄っぺらくないか?
上映後、席を立ったが、右(老婦人二人)、左(老夫婦)が立たない。右は話に夢中。左はエンジンがかからないのか。完全に明るくなった映画館でしばし立ち尽くし、田舎に越したら囲炉裏が欲しいなと思う私であった。

いの・たかゆき 1971年、三重県生まれ。イラストレーター。第44回講談社出版文化賞、第53回高橋五山賞。著書に『画家の肖像』『となりの一休さん』などがある。テレビアニメに『オトナの一休さん』。最新刊は南仲坊さんとの対談本『いい絵だな』。



はれのち句もり 十四
高山れおな

泉鏡花

「番茶話」(大正十二年／一九三三)は、「蛙」「玉虫」

「赤蜻蛉」の三章からなる随筆だが、そのうちの「蛙」に、今回の主人公である谷活東が登場する。――「故人谷活東は、紅葉先生の晩年の準門葉で、肺病で胸を疼みつゝ、酒々落々とした江戸ッ児であつた。(かつぎゆく三味線箱や時鳥)と言ふ句を伸の町で血とともに吐いた。」

鏡花によれば、柳橋のお玉という芸者に岡惚れした活東は、番傘を回しながらあちこち蛙を聞いて歩いた。それは「どの蛙も、コタマ！ オタマ！ と鳴く」からなのだった。森銃三が伝える話は少し違っており、雨の日にお玉のところまで借りた番傘をさして歩いて来たところ師の紅葉とばったり出くわしてしまい、傘の字を見られまいとして、絶えずくるくる回しながら受け答えをしたのだという(「明治人物夜話」)。

活東の句は『俳諧新潮』に五十五句が採られており、これは編者尾崎紅葉の百三十一句



星野妻人百二十四句、篠崎霞山九十二句に次ぐ数字で、巖谷小波の五十一句より多い。

残暑今日魚切に付休みかな
八潮の猫まで白き揚屋かな
夕霜の星に別れて降りけり
味噌漉に世は霜枯の豆腐哉

一句目は、ザンシヨキヨウ・ウオギレニツキ・ヤスミカナ。魚不足で休店したというのだから、たとえば鮮屋などか。着眼が珍しい。二句目の八潮は旧暦八月一日のこと。幕府の式日とされ、大名・旗本が白帷子に長袴で登城し、將軍に挨拶した。吉原でもこの日、遊女たちが白小袖で客を迎えたところからの

ピンク

映画に淫していた頃、大学を辞めて若松プロへ行こうと決めた。上京して、「来い」と言われたら直ぐ行けるように、若松プロのある原宿セントラルアパート近くの公衆電話から電話した。いきなり若松孝二が出たらどうしようドキドキした。女性が出て、「若松は只今カンヌへ行っております」と言った。若松さんは大島渚『愛のコリダ』のプロデューサーで、渡仏していた。それでさすが大阪へ帰った後年若松さんと知り合いその話をしたせいかととても可愛がってもらった。

セントラルアパートには最近亡くなった矢崎泰久の「話の特集」の編集部もあった。和田誠が手弁当で尽力したのは有名だが、僕は毎号熱心に読んでいた。必ず居酒屋「北の家族」の広告が出ていて、あれでホッケを知った。矢崎+和田好みの癖ある執筆陣が魅力的で、色川武大『怪しい来客簿』も連載していた。

古本屋で久保田二郎『手のうちはいつもフルハウス』を見つけて、既読だったが思わず買った。久保田も常連執筆者だ。七十年代後

「猫まで白き」だ。先の引用文中にあった三味線箱の句もそうだが、狭斜の巷を詠んで堂に入っているのは、さすが芸者との艶聞で聞こえた作者ではある。夕霜・味噌漉の句も感覚的な牙えを見せる。しかし、活東の絶唱というべきは、紅葉の没後、彼自身が二十八歳で死んでしまいう八ヶ月前の明治三十八年(一九〇五)五月、「卯杖」に出した三句だろう。

海棠と山吹と散る嵐哉
燕に病苦の顔を覗かれぬ
夕死なむ朝菖蒲湯に入りて

一、二句目は、一見、無造作な作りのようにいて詩品は高い。三句目は、ユウベシナンアシタ・シヨウブユニイリテで、破調ながら十七音になっている。言葉自体はもちろん、『論語』の「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」を踏まえるが、込められた思いとしてはむしろ蓮如「白骨の御文章」の「朝には紅顔ありて、夕べには白骨となれる身なり」の方が近かる。もともと生活力に欠ける(酒々落々!)上に肺患で伏していたこの時期、活東は江見水蔭ら仲間たちのカンパで辛うじて露命をつなぐ程に窮迫していた。その日の夕方にこそ死ななかつたにせよ、実際、これが生涯最後の菖蒲湯だったのである。

半の時評エッセイだが、隔世の感がある。それは時代の差異でなく筆鋒の鋭さ、あの頃の書き手共通の自由さが心地いい。

二郎さんは大の巨人嫌い、阪神びいき。良いぞ! 当然高校野球は大ッ嫌い。ジャズ評論家で「スイングジャーナル」の編集長だったから当然流行歌嫌い、演歌嫌い。美空ひばりは大ッ嫌い! ゴールデン街で威張ってる「安達ヶ原の鬼婆みたいな『まあだ』のママも、そこで嬉しそうに飲んでいる客も嫌い! 「胸にイチモツ手に荷物」で逃げ回った阿部

のお定(こう呼ぶのがしっくり来るとか)と出所後働く飲み屋で会った話、カラヤンが取材の女性記者の前でショートパンツの間から巨根を見せびらかしたとか、キングコングやお医者さんごっこ(英語で「ブレインング・ドクター」と言うそう)を巡る話など多多彩だ。どれも歯に衣着せぬ筆致で痛快無比、今時決してお目にかかれないうエッセイだ。

「ぼくの写真がぼくだ」と訳の分からん事を言う土門拳に突っかかり、そして写真家と飲んでも「一晩ゆかに会話したという経験はついでない。」と書く。さらにすごいのは知

り合いの浅井慎平たちに、「写真で、商売にしていると、馬鹿になっちゃうのかねー」
「それとも、最初から、馬鹿なやつが写真家になるのかねー」
なんて質問する。相手は唖るばかり。すごいでしょ、二郎さんて。

芸能界のマリワナ(「マリファナ」と校正するなど編集子に言う)騒ぎにふれて、「二十五年以上」「ポストンバック二杯くらいゆうに吸っている」と言う二郎さんは怒る。マリワナ吸って「音がとてもよく聴こえるから」と言った「井上イン水だとか内田なんとか」に、ギターのチューニングもまともに出来ていないくせに何をホザクか! 井上はマリワナ五本十万円で買ったと知り、俺は金を出してマリワナを買ったことがないと呆れる。いやはや二郎節炸裂、笑い転げながら読み終えたのでした。

読みながらチラチラ頭に浮かんだのは何を隠そう、日々大学の授業で接する学生諸君の顔だ。どいつもこいつも生まれてこの方、いっぺんも愉快な事がないという面だ。真面目で遵法精神の塊で、危険な事に一切近付かない。自分の極狭の場所から一歩も出ない。

二郎さん、あなたならどう言うてやりますか? 心底教えてほしい。

にしおか・たくや 1956年、京都府生まれ。脚本家。代表作に『ガキ帝国』『TATTOO(刺青)あり』『沈まぬ太陽』『はやぶさ〜遙かなる帰還』、TVドラマ「京都迷宮案内」シリーズ、「返還交渉人」など。

たかやま・れおな 1968年、茨城県生まれ。俳人。ちなみに「活東」という妙な俳号は「蛸蛸/カト」つまりオタマジャクシのものじりらしい。カエル好きは、女出入りとは関係なく天性か!?

イラストレーション……丹下京子



X-Leg (エクスレグ) は、折りたたみ式の椅子やテーブルでよく見かける構造です。古くは古代エジプト (紀元前2030-1640年頃) や北欧の青銅器時代 (紀元前1750-500年頃) の遺跡から木製ツールが発見されています。

現代の椅子のなかでとりわけ美しさが際立つX脚ツールといえば、デンマークのコア・クリント (1888-1954) による「プロベラスツール」(1930年) とそれをリデザインしたポール・ケアホルム (1929-1980) の「メタル・プロベラ・ツール」(1961年) が挙げられます。コペンハーゲンのデザインミュージアムでその二脚が並んでいるのを見たとき、滑らかな脚のつくりに関心しました。クリントは、すでに完成された過去の作品に問題点を見出し、それを解決しつつ、良い点は残し、現代生活に沿うよう改良していくというリデザインの考え方を提唱した教育者でもありました。彼の思想は北欧モダニズムに直結しています。

写真の椅子は1927年にMarcel Breuer (マルセル・ブロイヤー/ハンガリー/1902-1981) がデザインしました。スチールパイプを用いた最初の椅子として知られる「ワシリーラウンジチェア」(1925年) に折りたたみ機能を付加しています。X-Legという古代から受け継がれる構造と当時の最新技術の融合によって、軽やかで機能的な椅子が生まれました。今回のテーマのリデザイン、そしてデザインミュージアムでの記憶が呼び起こされたのは、このブロイヤーの椅子を通じて、バウハウスと北欧モダニズムの相違に改めて目が向いたからです。

ウンベルト Umwelt Textiles & Objects
604-0962 京都市中京区夷川通
御幸町西入達磨町588-1

魚の環世界 21

魚住寧子

タイトルレタリング……ヨコカク(岡澤慶秀)

うおずみ・やすこ

1977年、兵庫県姫路市生まれ。Umwelt Textiles & Objects店主。学生時代にテキスタイルを学ぶため、デンマークへ留学。帰国後、古美術店に勤めたのち2012年、京都・夷川通にUmweltを開く。



座面前の高さ44cm
横幅78cm
全長71cm
ドイツ TECTA社製

NHKでフランスの連続ドラマ「アストリッドとラファエル」シーズン2が始まり、毎週日曜がたのしみです。オリジナリではまだ紹介していませんが、ミステリ小説の図の依頼をいただくことがあります。最近では4月刊の島田荘司さん『ローズマリーのあまき香り』(講談社)で時間トリックの図を作りました。昨年は阿津川辰海さん「水槽城の殺人」(『あなたへの挑戦状』斜線堂有紀さんと共著・講談社)で複雑な城の見取り図と隠された仕掛けの図を。著者の手書きの図を元にして作図していくのはたのしい作業です。(赤波江)

ゴンチチのFM番組で、ハンパートハンパートの「ブラザー軒」。名唱。「シングルコレクション」収録の未発表曲。高田渡の名曲を切々と。詩は菅原克己。さっそく図書館で『菅原克己全詩集』と『通り過ぎた人々』(小沢信男・みすず書房・2007)。菅原克己をはじめ新日本文学会の詩人、作家と小沢信男の交流を名調子で。5月の週末、岡山で沢知恵さんのポートレートの撮影。旭川、半山山、長島愛生園で。神奈川大学評論102号に沢さんと岡田暁生の対談。彼女が音楽に取り組む姿勢の真髄に触れられた。(日下)

今月の
あとがき



E.Mori

2023年5月15日発行 <ロゴデザイン>ヨコカク
<編集・デザイン>赤波江春奈+日下潤一 <印刷・製本>グラフィック
<発行>ビーグラフィックス ©B GRAPHIX 2023, Printed in Japan 【無断転載禁止】

◆Web = bgxgraphix.com ◆Twitter & Instagram = [@bgx_book_design](https://twitter.com/bgx_book_design) ◆日下潤一のブログ = www.bgx.jp/blog/
「オリジナリ」はBGXが毎月発行するペーパーです/90部/お問い合わせは akabae@bgx.jp まで

22 オリジナリ
Originally May 2023